私たちの町議会

めむろ議会だより

Memuro Town Assembly information

2017.5.12 | No. 177

5/1

議員任期の後半が始まる！

平成29年通年議会が開会

会期は5月1日～来年4月30日の365日間

常任委員・議会運営委員の改選を行いました

5月1日、平成29年町議会定例会5月臨時会議を開会し、平成29年の議会会期を来年4月30日までの365日間と決めました。

また、平成27年の議員選挙から2年が経過したことから、委員会の構成替えを行い、総務経済常任委員長に中野武彦議員、厚生文教常任委員長に正村紀美子議員、議会運営委員長に早苗豊議員を選出しました。

現在の議員の任期は平成30年4月30日までで、残すところあと2年となります。

議会基本条例を基に「住民に開かれ、分かりやすく、活動する議会」のスローガンの下、町民の皆さまの声を集め、活発な議員間討議と政策形成サイクルをフル活用し、政策提案型議会へと一層の進化を目指します。

各常任委員会構成

総務経済常任委員会

委員長　中野　武彦
副委員長　立川　美穂
委　員　髙橋　源
常通　直人
吉田　敏郎
早苗　豊
渡辺洋一郎

厚生文教常任委員会

委員長　正村紀美子
副委員長　中村　和宏
委　員　柴田　正博
西尾　一則
梅津　伸子
青木　定之
寺町　平一
梶澤　幸治

議会運営委員会

委員長　早苗　豊
副委員長　梶澤　幸治
委　員　中野　武彦
正村紀美子
中村　和宏
立川　美穂
渡辺洋一郎

町政を問う！ 3月定例会議 一般質問

6人の議員が登壇

町の考えを問う 一般質問が行われる

3月16・17日に平成28年芽室町議会定例会3月定例会議を開催し、6人の議員が一般質問をしました。

今号では、各議員の質問内容と町の答弁をお伝えします。

なお、紙面の都合上、質問・答弁を要約し掲載しています。

詳しい内容を知りたい場合は、議会ホームページで公開している会議の録画映像と会議記録をご覧ください。

目次

P.3　立川　美穂 議員
①町民が主役になった地域づくりを推進するための方策について

P.4　渡辺洋一郎 議員
①地域公共交通（コミュニティバス）の取り組みについて

P.5　早苗　豊 議員
①高齢運転者による事故防止対策について
②地域資源を活用した観光の振興について

P.6　吉田　敏郎 議員
①公立芽室病院の将来の在り方について

P.7　正村紀美子 議員
①奨学金制度について教育委員会の見解について
②聴覚障がい者への行政情報の提供について
③公共施設での受動喫煙防止対策について

P.8　梅津　伸子 議員
①子どもの貧困実態調査の実施を
②本格的に新エネルギーを活用したまちづくりを

町民が主役になった地域づくりを推進するための方策について

町長／協働のまちづくりにより第４期町総合計画を実現するため、本町の実態にあった手法を検討し、進化させていきたい

立川　美穂 議員

問　①地域担当制度の今後のあり方に対する見解は。②町民と行政の対話によるまちづくりに対する見解は。

答　①人口減少が進む中、持続可能なまちづくりを進めるためには、住民が自分たちで考え、知恵を出し、責任を持ち地域設計を行う必要があると考えます。そのためには地域と行政の課題共有が重要であり、そのツールとして地域担当制度はますます重要になると考えています。

②情報が共有され、多様な主体により話し合われ、主体の特性を共有し、課題解決を目指すことが協働のまちづくりであり、第４期町総合計画の実現をはかるものであると考えます。この実現に向けた手法については、検討を重ねながら、今後も進化させていきます。

問　少子高齢化や生活様式の変化から、地縁組織との関わりが希薄になっている。町民活動の場も、地域を軸としたものから、ボランティアや趣味の場にシフトしてきていると考えるが。

答　地域を軸とした町内会活動などは少し停滞してきていることを実感しています。町民の声の吸い上げについても、町内会を対象とする地域担当制度にこだわらず、それぞれの活動に合わせ、担当課が行っていくということも必要と考えます。

問　平成26年度から現在まで、48件のパブリックコメントがあったが、町民からの意見は7件であった。この返答数をどう受け止めているか。

答　パブリックコメントに至るまでにはさまざまな手段で町民の声を集約しており、その最後に、声なき声を最終的に聴く場・機会として用いています。制度としては難しいものではありますが、公表するデータを分かりやすくするなどの工夫は今後も行い、先進事例も眺めながら取り組んでいきたいと考えます。

問　今年度行った住民意識調査の結果をみると、「町民参加、意見聴取の手段が充実していない」と回答した方の中には「参加の手法が分からない。」「私なんかの意見を言っていいのだろうか。」という意見があった。こういった方をまちづくりに巻き込むことが重要と考えるが。

答　1つの方法でよしとするのではなく、さまざまな方法を持ち意見聴取を行うことが重要であると考えます。

問　町の計画策定過程で町民の意見を伺う場合、最初の方向とは違っても、新しいアイデアをどんどん取り入れていくような形式も必要ではないか。

答　課題の内容や段階により、一番効果的な手法を取り入れていきたいと考えます。

問　町民の意識醸成や人材育成への見解は。

答　社会でご活躍される現役世代の方は、なかなかまちづくりや地域活動に参加しづらいという課題があります。各世代に合わせた手法や活動の多様性を意識し、工夫をしていきたいと考えます。

問　今後、協働のまちづくりをどのように方向づけていくか。

答　まちづくりに参加した達成感や成功体験を得られるようなさまざまな仕組みづくりが必要であると考えます。

一般質問を終えて　住民が主体となった対話を通じたまちづくりは一朝一夕には実現不可能ですが、他の自治体では長い年月を経て成功した事例もあります。「地域の力」は地方創生にはなくてはならない重要な柱ですから、もっと踏み込んだ取り組みが求められてくると考えます。

地域公共交通（コミュニティバス）の取り組みについて

町長／平成29年度中に一定の方向を出したい

渡辺洋一郎 議員

問 **①コミュニティバス（じゃがバス）の事業分析と評価は。**
②農村地域における地域公共交通の今後の取り組みは。
③運転免許返上者の足の確保について見解は。
④利用向上に向けての取り組みは。
⑤多様な主体との協働による取り組みは。

答 ①運行当初は、運行時間に対する戸惑いも見られましたが、他の交通機関と合わせて使うなど、利用者が自ら工夫し、安定した状態にあると考えています。
②③今後のさらなる高齢化の進展等も考え、早急に検討すべき課題と考えます。平成29年度中に町地域公共交通活性化協議会で協議・検討を進め、基本方策を固めたいと考えています。
④現在は、民間事業者が採算性を理由に運行していない公共交通空白地帯に住む交通弱者の移動手段として、公費を投入し運行しています。
当面、高齢者を中心とした利用者が減るという想定はしていませんが、高齢者の生活圏域を維持することで介護予防につながるという側面もあることから、運行路線やバス停の検証を継続し、地域社会と一体となった運行に努めていきたいと考えます。
⑤平成30年度以降の次期計画を平成29年度中に策定します。この中で、多様な主体と協働し、お互いの利便・利益が向上する取り組みを進めていきたいと考えています。

問 **町内の地域公共交通の課題は。**

答 高齢化社会における農村地域の新しい交通手段の確保が大きな課題であると考えます。

問 **平成25年に一度デマンド型地域交通を検討したが、ニーズが少なく費用対効果も少ないため実施を見送った経過がある。今後の考えは。**

答 高齢になっても暮らしていける環境づくりの観点から検討を行い、平成29年度中には一定方向を出したいと考えます。

問 **運転免許返納者への対策についても、平成29年度中に方策を出す考えか。**

答 そのとおりです。

問 **道路交通法が改正され、75歳以上のドライバーに対する認知機能のチェック体制が強化された。今後免許返納者が増えることが予想されるが。**

答 対応策を一層しっかりとらなくてはいけないと考えます。

問 **免許返納者へじゃがバスの無料乗車券（1年間）を発行している。この制度の周知をもっと行うべきでは。**

答 継続して行います。

問 **バスに親しむイベントなどを行ってはどうか。**

答 平成29年度中の検討に加えていきたいと考えます。

問 **町内会や商工会、各商店会など関係団体との連携が不可欠と考えるが。**

答 地域公共交通活性化協議会には、商工会、ＪＡ、消費者協会、町内会連合会、民生児童委員協議会、育児ネットめむろ、そのほか交通関係機関・団体など多くの方がメンバーに入っており、意見交換をおこないながら運営を行っています。

一般質問を終えて じゃがバスが走っていない農村地域の移動手段の確保に向けた検討や運転免許返納者への対応など、町の考え方を確認しました。検討するとしたことについて引き続き取り組んでいきたいと思います。

高齢運転者による事故防止対策について

町長／交通安全講習会などの実施を継続しながら、新しい対策も研究、検討していきたい

早苗　豊 議員

問 **①高齢運転者の事故防止策の今後の展開は。**

答 交通安全講習会等の継続に加え、国や北海道などの関係機関との連携を強化し、方策を見出していきたいと考えます。

問 **自分で運転して移動したいというのが本音と思う。少しでも安全に運転できる方法を町として考えるべきでは。**

答 非常に難しい問題と考えます。安全な運転には運転者の身体能力、判断能力の維持と車両性能の向上が必要です。現状においてはそういう意味で完全に安全な車はなく、免許の返納や公共交通での代替の観点からの対策を考えています。

問 **運転をサポートする機能を持つ車両などを周知することも必要では。**

答 周知することは可能と考えます。

問 **自動車販売会社や関連団体などと連携し、試乗会を開催するなどしてはどうか。**

答 過去には自動車学校と協力し交通安全講習会を行ったこともあります。町が主体となることにこだわりませんが、工夫さえすれば方法はあると考えます。

問 **高齢運転者用のマークの掲示を啓発すべき。**

答 交通安全講習会などをとおし、地道に啓発活動を継続していきます。

問 **運転に自信がない方でも駐車しやすいような広さや、直進で出入りできる駐車帯の整備は可能か。**

答 駐車台数の確保とのバランスもありますが、補助事業等が活用できるかどうか検討し、対応できるものはしていきたいと考えます。

地域資源を活用した観光の振興について

町長／サイクルツーリズムや就労キャリア教育など、体験・滞在型観光を推進する

問 **体験・滞在型観光の研究開発と事業実施を進めているが今後の方針は。**

答 これまで観光資源と気づかなかった地域資源に着目したニューツーリズムの観点から、「景観」と「食」をサイクルツーリズムで結び、五感で体験する観光事業の発掘に取り組みます。
滞在型観光については、現在、特別支援学校などの修学旅行や視察研修を受け入れる「就労キャリア教育観光事業」を推進しています。

問 **いかに交流人口を増やすかが重要。今年度から始めるサイクルツーリズムの具体的な構想は。**

答 大変難しい問題で、この後担当課とのヒアリングを行う中で具体化していきたいと考えます。

問 **新嵐山荘を利用した就労体験型交流事業の今後の発展性は。**

答 本町での就労体験やその仕組みも含めて全国に発信していきたいと考えます。

問 **役場内で横断的な組織体をつくり対応していくべきと考えるが。**

答 現在も保健福祉、教育、農業関係の課が連携して対応しています。

一般質問を終えて 高齢者の方々が安心して自動車を運転できる環境になってほしいものです。体験型の観光で訪れた方々と地元の方たちとの交流が深まることが次のステップにつながると思います。

公立芽室病院の将来の在り方について

町長／地域における病院の役割、機能分担を論議し、広く連携していきたい

吉田　敏郎 議員

問 **①本町の「新公立病院改革プラン」の取り組み状況は。**
②病院の将来の方向性や役割、民間病院等との再編、ネットワーク化の必要性についての見解は。
③経営効率化に関しての見解は。

答 ①「病院改革プラン推進委員会」を組織し、昨年10月から本年2月までの間に4回の会議を開催し、(1)構想を踏まえた病院の役割の明確化(2)経営効率化(3)再編ネットワーク化(4)経営形態の見直しについて論議し、「公立芽室病院 新・改革プラン」の素案作成を終えました。

今後は、関係課協議、管理庁議を経て原案を確定し、議会への報告とまちづくり参加手続きを経て、公立芽室病院運営委員会へ諮問し、答申を得て、成案とする方向で取り組んでいます。

②病院の再編・ネットワーク化については、十勝医療圏内の医療需給状況等を見据え、全体の中で当院が果たす医療機能とその役割分担を論議し、それぞれの医療機関の機能と特性を相互に理解し、多機能な連携を推進していくことが必要と考えています。

③他院との比較のみならず、その病院の持つ強みと特性をどう伸ばしていくか、弱点をどう克服していくかという視点が大切であると考えます。新改革プラン策定にあたっては、当病院の持つ医療機能をどう強化していくか、今ある8診療科の体制をどのように強化・維持し、地域包括ケアを推進していくかに主眼を置きながら取り進めていきたいと考えます。

問 **財政面での見通し、現状は。**

答 平成28年度の決算見込みでは、約1億円前後の赤字が見込まれています。

問 **医師確保には、早期に見通しを立て対策を行うべきと考えるが。**

答 常に、2年後、3年後を見据えて医師対策を行っています。

問 **24時間体制の救急医療は医師の負担となる。帯広市が近い本町において需要があるのだろうか。**

答 急性期の患者にはかなり危険な状況の方もおり、当院で処置できるものは今後も行っていきたいと考えます。

問 **今あるものを全て維持できれば理想的だが、財政のことを考えればあり方を変える必要もあると考えるが。**

答 患者の求めるものや地域における病院の役割等を考え、基幹病院との役割分担等も行いながら対応していきたいと考えます。

問 **民間移行の考えは。**

答 これを機にとは考えていません。民間になれば、不採算部門の診療科目がなくなり、地域での役割、機能分担が果たせなくなると考えます。

問 **国の提案する①地方公営企業法の全部適用②地方独立行政法人化③指定管理者制度の導入④民間譲渡やサテライト化などの経営方法への見解は。**

答 1つ1つの検討はこれまでも行っていますし、今後も行っていきます。今後については、平成29年度の病床稼働率も見ながら判断をしたいと考えています。

問 **町は町立特別養護老人ホームを民営化した実績もあるが。**

答 医療と福祉施設は目的も機能も全く違うため、一緒に語ることはできないと考えます。

一般質問を終えて 病院の果たすべき役割は、時代と共に変わります。未来永劫（えいごう）維持できる財力があるなら何も言いません。町民の大事な病院を維持するためにも町は将来構想を分かりやすく提示すべきです。

奨学金制度について

教育長／償還免除制度は、事業効果を検証しながら、より精度を高めたい

正村紀美子 議員

問 **①奨学金貸付の趣旨は。**
②奨学金貸付対象者の選考基準は適切であるか。
③新たに創設された償還免除規定が定住対策に及ぼす効果は。

答 ①教育の機会均等の趣旨に基づき、経済的理由により奨学金を必要とする者に対して奨学金の貸付を行っています。

②「国の教育ローン」の貸付基準を準用しており、適切であると考えます。

③大学等卒業後、本町に住むことの動機づけとして、若者のUターン等の期待ができる施策と考えます。

問 **定住対策と奨学金制度を組み合わせた制度創設であるが、雇用の確保については町長部局との連携が必要なのではないか。**

答 これまでも計画策定作業を進める中で議論してきており、今後も連携を取っていきたいと考えます。

問 **若者の定住対策を進める観点から、高等教育等への進学をせずに就労した同世代の方への支援を検討すべきではないか。**

答 奨学金制度利用者へのアンケート、他自治体の取り組みの研究などと合わせ、教育委員会で議論をしていきます。

聴覚障害者への行政情報提供のあり方について

町長／日頃のつながりから困りごとの把握に努め、個別の相談支援体制を作っていく

問 **①電子メールによる119番通報システムは芽室消防署でも受付できる。対象者には周知されているか。**
②聴覚障害者の方が行政情報を適切に受け取ることができる体制整備が必要なのではないか。

答 ①平成28年3月にとかち広域消防局から協力要請があり、該当者に文書で通知しました。資料には芽室消防署でも登録申請手続きができることを記載していますが、平成29年1月にめむろ町民活動支援センターが開催した意見交換会において、周知が不十分であったことが分かりました。今後は重度の方には個別に登録の意思を確認していきたいと考えます。

②「災害時個別支援計画」の更新を図り、行政情報や緊急時・災害時情報を適切に受け取ることができる体制を整備していきます。

公共施設の受動喫煙防止対策について

町長／「健康増進法」の趣旨にもとづき、今後も公共施設の受動喫煙防止対策を推進していく

問 **①地域福祉館等における現状について**
②人の出入りがある箇所の受動喫煙防止対策はどのようか。
③新庁舎の喫煙スペースの考え方はどのようか。

答 ①町は公共施設の管理者として受動喫煙防止対策に取り組んでおり、各施設も同様です。

②施設利用者の出入りに係る動線や視界から可能な限り外した場所を喫煙場所としています。

③改正が予定されている「健康増進法」の趣旨を遵守します。

問 **指定管理者が運営をしている新嵐山スカイパークは受動喫煙防止対策の対象であるか。**

答 新嵐山スカイパークは公共施設であり、町の受動喫煙防止対策の方針を準用しなければなりません。

一般質問を終えて 奨学金償還免除制度は、町長部局と連動した事業の展開が必要だと考えます。今後は、制度の効果を確かめ、改善点があれば指摘していきます。

子どもの貧困実態調査の実施を

町長／独自のアンケート実施は考えていない

梅津　伸子 議員

問 ①北海道が実施した実態調査結果の速報値についての認識は。
②本町においてもアンケートを実施し、実態を把握すべきでは。

答 ①本町の貧困対策を考える上で重要な基礎資料になるものと認識しています。
②アンケートだけでは貧困の実態を把握することが難しいこと、町内だけでは母体数が少なく傾向の把握が難しいことから、町独自のアンケート実施は適切ではないと考えています。

問 速報値によると、家計状況が「赤字」と答えた世帯が全体の23・8％、赤字ではないが「ぎりぎり」と答えた世帯が43％である。この結果の感想は。

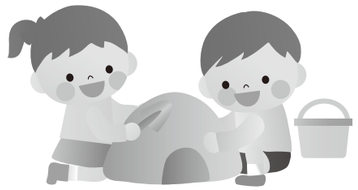
答 今回のアンケートは初めて行われたものであり、時系列で比較検討し多い少ないと判断する根拠がありません。活用については、今後、全体報告が出た段階で分析を行う考えです。

問 やはり本町の実態をつかむ必要があると考えるが。

答 子どもの貧困対策は大きな課題と認識しています。国と同様の調査内容でアンケートを行うことは難しいですが、今、町としてできる方法は徹底して行っていきます。

問 見た目では判断できない貧困の実態こそ、アンケート調査により分かるのでは、

答 アンケートは回答する母集団が小さいと客観的な数値にならないことなどもあり、総合的に判断して実施しない考えです。



本格的に新エネルギーを活用したまちづくりを

町長／平成32年までにバイオマスペレット製造工場建設を目指す

問 ①新エネルギービジョン、新エネルギー重点ビジョンを踏まえた現段階での到達度と今後の課題は。
②第５期総合計画の策定において、新エネルギー活用の位置づけを強化すべきでは。

答 ①平成25年度は人口1人あたりのCO2排出量が9・0％、新エネルギー導入によるCO2削減量は56％の達成度でした。直近の達成度は、人口1人あたりは調査を行っていないことから把握していませんが、削減量は134％で、すでに中間目標を達成しています。
農業残さ燃料化は、全体システム構築の最終段階という状況です。今後は、公共施設への農業残さ用バイオマスボイラー設置に合わせ、バイオマスペレット製造工場建設を目指しており、中間目標年である平成32年までに完成させたいと考えています。
②新エネルギービジョンは総合計画に基づく個別計画でもあり、当然盛り込むべき施策であると考えます。

問 雇用の確保という視点からも、自然エネルギーの活用を大きく打ち出すべき。

答 運用コストなども念頭に置きながら考えてきたいと思います。

一般質問を終えて　町エネルギービジョンに基づいて、農業残さを活用した長年の研究が実を結ぶことに。CO_2削減・エネルギー自給率向上と仕事づくりを結んだ提案を今後も続けたいと思います。

CHECK 追跡 一般質問のその後

定例会議で、町の考え方を問う一般質問が、
その後、町の政策ににどのように反映されたのか追跡します

委員会で追跡調査！ H28. ３月一般質問・質疑

３月定例会議で議員個人が行った一般質問・質疑のうち、以下の点について常任委員会で追跡調査すべきとの意見が、会議終了後の振り返りの中で出されました。今後、各委員会で協議を行い、調査を検討していきます。

■総務経済常任委員会
①地域公共交通について（渡辺議員の一般質問から）
・５年が経過したコミバス運行事業の分析と検証
・今後の農村地域における公共交通のあり方
②新エネルギーについて（梅津議員の一般質問から）
・農業残さペレット化取組状況の調査
③地域防災事業 / デジタル防災行政無線・基本設計委託料（常通・立川・正村委員の質疑から）
④行政改革推進事業について（渡辺委員の質疑から）

■厚生文教常任委員会
①奨学金制度について（正村議員の一般質問から）

奨学金制度について

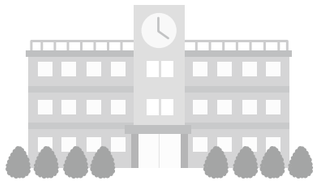
中野武彦議員の質問（H27.9月）
返済免除制度の制定を！
利用者が本町に就職した場合に償還を免除する規定を設けるべき。

教育長答弁：課題は多くあるが、貧困対策・人材確保の観点から、制度変更を検討していきたい。

立川美穂議員の質問（H27.9月）
連帯保証人の要件緩和を！
町内に連帯保証人を見つけることが難しい場合もある。要件緩和をすべき。

教育長答弁：償還に滞納が生じた場合、町外の方への追及は困難であり、見直しは考えていない。

町外在住者も連帯保証人になることが可能に！ 償還免除制度を創設！
平成28年３月定例会議で、連帯保証人の対象条件変更および償還免除規定を追加する条例改正案が提出され可決。平成29年４月から施行。



政策形成サイクル

平成28年度、総務経済常任委員会、厚生文教常任委員会が取り組んできた政策課題に関する調査等の取り組み結果をお伝えします。

■総務経済常任委員会

①地域公共交通確保対策事業
→「じゃがバス」運行の定着に伴い、農村地域における公共交通を求める声の高まりを受け、町は平成29年度中に方向性を示すとしている。地域ごとのニーズ把握と具体的方策の調査・提言が必要。
②新嵐山スカイパーク運営支援事業
③行革推進事業
→２事業を併せ、長期間取組がなされていない「新嵐山スカイパークのあり方検討会の提言書（H21.12.28提言）」に基づく進捗状況の調査を実施した。町は今後、「提言書」を基本に、新たに運営形態等について、行政改革推進委員会・専門委員会を中心に、検討を始めるとしている。議論の進展に伴い、内容調査と、委員会として提言が求められる。

■厚生文教常任委員会

① 町民プール維持管理事業
→提言書を教育委員会へ提出。（P10参照）
② 地域生活支援事業
→提言書を町に提出。（P10参照）
③ 地域包括ケアシステム構築
→調査・意見交換を重ねたが政策提言まで至らず。今後もシステム構築に向けた取組を注視していく。
④ 公立芽室病院の経営安定化
→調査を重ねたが政策提言まで至らず。今後も新改革プランを踏まえ注視していく。
⑤ 地域特性を生かした食育事業の推進
→調査を進めたが食育の取り組みはすべての町民が参加し実践することが重要であり、今後も注視する。

政策形成サイクル：町が進める政策などに対し、町民の意見聴取等を踏まえ、調査を行い、議会として町に政策提言するとともに反映させることを目的とし、事業の抽出から、調査・提言までをサイクル化して毎年度ごとに取り組んでいます。

厚生文教常任委員会の提言内容

詳しくは９ページ下段の政策形成サイクルの厚生文教常任委員会をご覧ください。

■町民プール維持管理事業に対する提言書

芽室町温水プールは、平成２年に開設以来27年を経過し、経年劣化などにより施設設備の老朽化も著しく、大規模外壁改修工事・ボイラー熱交換器改修工事・天井張替え工事はもとより、日々の小破修繕が欠かせない状況にある。

また、温水プールは、開設当初は夏季期間をプールとして、冬季期間をゲートボール場として利用したが、通年利用となってからは天井が高いことから冬期間の熱効率も悪く、施設維持管理に大きな経費を費やす状況下にある。

このため、教育委員会では温水プール改修計画を策定し、多くの検討会議を開催して利用者から好感を得られる施設整備を目指している。

当厚生文教常任委員会として、所管事務事業調査及び先進地事務調査、町民との意見交換会等を踏まえて、次のとおり提言する。

記

1　新たな施設整備にあたっては、施設改修では今後も修繕経費が発生するとともに、維持管理コストも現在より大きく軽減されないことも予想される。

　また、現在地での建替えとなると１年近い期間が必要とされ、学校授業や施設利用者等への影響を最小限にすることを考慮し、新たな場所に新設することが望ましい。

　施設規模については、利用目的と機能に合わせてコンパクト化し、維持管理コスト等についても十分検討すること。

2　学校教育活動、町民の健康維持・増進を図るため、通年利用可能な施設とすること。

3　多様な立場の町民の意見を反映し、ユニバーサルデザインに配慮した施設とすること。

4　より質の高いサービスの提供、事業コスト削減を目指し、建設・運営については民間の活用など多様な手法を検討すること。

5　多様な町民が集える場として、施設の複合化について検討すること。

■地域生活支援事業に対する提言書

芽室町では障がいの有無に関わらず、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、乳幼児期から高齢期に至るまで生涯を通じて総合的なサービスを受けられるよう保健・医療・福祉・子育て・教育・就労に関する施策を推進している。

また、障がいの早期発見、療育、就労まで一貫性と継続性ある「芽室町発達支援システム」の構築に取組んでいる。

しかし、そうした施策を推進するためには地域生活支援事業のさらなる充実が欠かせず、当厚生文教常任委員会として、所管事務事業調査及び先進地事務調査、町民との意見交換会等を踏まえて、次の点を課題と考え提言する。

記

1　障がい及び障がい者に対する地域住民の理解を促進する取組みや啓発を継続して行うこと。

2　親亡き後の終の棲家（ついすみか）として、障がいがあっても生涯一人のひととして尊厳を持って自立して暮らしていける住まいの確保を検討すること。

3　障がい者の一般就労後の住まいの確保を検討すること。

4　グループホーム等、住まいの確保と整備のための人材育成・確保を検討すること。

5　障がいのある方が災害時に安心して避難できる体制の確保と福祉避難所の確保を検討すること。

青木委員長（左）から提言書を担当課長へ手渡す。

公表　平成28年度下半期　議長交際費（H28.10～H29.3）

支出日	支出項目	区分	金額（円）
10/22	第34回大樹町めむろ会総会・懇親会費	渉外費	3,500
11/ 9	視察対応用お茶代	渉外費	6,480
11/20	自衛隊帯広地方協力本部創立60周年記念行事会費	渉外費	6,000
11/22	優良商工従業員表彰式の際の志	慶　祝	3,500
11/30	いびがわマラソン対応お礼	渉外費	7,052
12/11	芽室郷土芸能「メムオロ太鼓」保存会30周年記念発表会並びに祝賀会会費	渉外費	2,500
1/11	議員研修会講師昼食代	渉外費	690
1/19	芽室町商工会新年交礼会会費	渉外費	1,000
1/23	視察対応用お茶代	渉外費	4,320
1/27	芽室東工業団地親交会定期総会会費	渉外費	3,000
1/29	第４普通科連隊創立65周年記念行事会費	渉外費	2,500
1/30	平成29年自衛隊協力団体新年交礼会会費	渉外費	5,500
1/31	市町村行政懇談会・新年交礼会会費	渉外費	8,108
2/27	視察対応用お茶代	渉外費	2,160
計			56,310

上半期　78,893円　　合計　135,203円

公表　平成28年度　議長の公務出席状況（H28.5～H29.4）　出席数　324回

出席回数	本会議・委員会・協議会	研修会	視察対応	調　査	講演要請	会　議	式　典	意見交換会	その他
324	168	10	20	8	2	10	34	15	57

議会白書　平成29年４月分　延べ９時間57分活動しました！

会議名		日時 会議時間	休憩時間	実質時間	議件	傍聴人数	ネット中継アクセス数
全員協議会	第14回	４月24日 10:30～11:59	0	1:29	・平成29年度議会費補正予算（案）について ・「議会だより」に関する議会モニターアンケートの対応について　他	2	(47)
常任委員会　総務経済	第25回	４月６日 9:30～10:02	0	0:32	・政策形成サイクル抽出事業について	0	8
常任委員会　総務経済	第26回	４月24日 9:30～10:16	0:01	0:45	・政策形成サイクル抽出事業について	0	(47)
常任委員会　厚生文教	第22回	４月11日 9:30～10:03	0:02	0:31	・町民プール維持管理事業について ・地域生活支援事業の現状のついて　他	3	136
常任委員会　厚生文教	第23回	４月27日 13:30～13:45	0	0:15	・政策形成サイクル抽出事業について	1	(33)
議会運営委員会	第31回	４月５日 9:30～11:23	0:22	1:35	・議会だより４月号の編集について ・議会だより５月号の編集企画について　他	1	8
議会運営委員会	第32回	４月21日 15:00～16:44	0:12	1:32	・平成29年芽室町議会定例会及び５月臨時会議の運営について ・議会だより５月号の編集について　他	2	4
議会運営委員会	第33回	４月27日 11:00～11:25	0	0:25	・議会だより５月号の編集について ・平成29年度芽室町議会活性化策（案）について　他	2	(33)
役場庁舎建設に関する調査特別委員会	第15回	４月24日 9:30～10:16	0:01	0:45	・役場庁舎建設基本設計について	3	(47)
総務経済厚生文教常任委員会合同委員会	第９回	４月27日 9:30～10:41	0:03	1:08	・台風10号に対する災害対策本部の検証（最終報告）について	3	(33)
小計		8:16	0:41	8:57		計17	平均23.6
議員研修会		４月24日 14:00～15:00	0	1:00	・監査委員制度の概要と出納検査について 講師　西尾　一則 議員（監査委員）		
小計		1:00	0:00	1:00			
合計		9:16	0:41	9:57		計17	平均23.6

（　）　同一日に複数の会議が中継された場合は各会議の合計アクセス数を表示
※インターネット中継を実施しなかった会議

議会モニターの声

「子どもの貧困」実態調査をすべき

畑中　庸助
モニター
（愛生町）

昨年度の議会で議論になったことの一つに、「子どもの貧困」問題がありました。三月議会では町は、「子育ての木委員会」の「子どもの貧困対策部会」で4回の協議を重ねてきたとのことでした。平成28年度からは一部中学生まで子どもの医療費助成の対象になりました。また新年度からは入学準備金が繰り上げ支給になり、金額も大幅引き上げられるようです。議員の方々がこの問題を取り上げ、町政がそれに応え、子どもをめぐる環境が一歩ずつ前に進んでいる様子がうかがえます。

「子どもの貧困」は本人が自覚しているわけでもなく、周囲が見て分かるものでもありません。また親にとっても、子どもには心配かけたくない、周囲にも知られたくないということで、生活の苦しさや困難さがなかなか表には出てこない状況があると思います。やはり町の状況を把握し、町政として、また地域としてどうしていくのか、考えていくことが大切だと思います。

平成28年度議会モニターに参加して

山本　雅代
モニター
（東めむろ第3）

議会モニターに参加し、たくさんのことを思いました。今まで少し他人事だと感じていましたが、いろいろな意見や情報を聞くことで、関心や興味を持てるようになりました。難しいイメージがありましたが、分からないことを知る機会ができ、いい経験になりました。

当たり前なのですが、自ら知るという行動を起こさなければ、得られるものも得られないままになってしまいます。自分ができる範囲で、積極的に行動を起こしていきたいと思います。

平成29年芽室町議会定例会 定例会議日程（予定）

6月定例会議
初　　日：1日（木）
一般質問：15日（木）、16日（金）
最 終 日：23日（金）

9月定例会議
初　　日：1日（金）
一般質問：19日（火）、20日（水）
最 終 日：26日（火）

［H28年度決算の審査日程
9月12日（火）～15日（金）］

12月定例会議
初　　日：1日（金）
一般質問：12日（火）、13日（水）
最 終 日：19日（火）

3月定例会議
初　　日：2日（金）
一般質問：19日（月）、20日（火）
最 終 日：22日（木）

［H30年度予算の審査日程
3月12日（月）～14日（火）、16日（金）］

※会議の日程は変更になる場合があります。

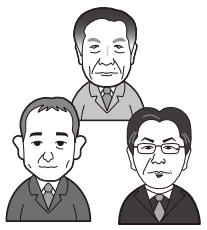
ぜひ傍聴にお越しください

編・集・後・記

■ゴールデンウィークはどのように過ごされましたか？レジャーやスポーツを満喫された方。お花見を満喫された方。ゆっくりと過ごされた方。いつもどおりお仕事をされた方など…。私は特別な予定はなく、いつもどおり過ごしました。（J）

■ようやく新緑の季節となり、春耕期真っ最中。畑の緑も増えてきました。今年は順調に農作物が生育して欲しいと願います。（S）

■5月から各常任委員会の構成が変わりました。2年間新しい顔ぶれで委員会活動にあたります。よろしくお願いいたします。（A）



●発行　北海道芽室町議会
●編集　議会運営委員会
●発行開始年月日　昭和56年7月

〒082－8651　北海道河西郡芽室町東2条2丁目14
電話　0155－62－9731　ファックス　0155－62－9813
メール　g-shomu@memuro.net
ホームページ　http://www.memuro.net/gkai/gikaihtm

LINE@ 友だちになってね!! @memuro-gikai2014
芽室町議会の概要を紹介 スマートフォンサイト ▶スマートフォンサイトを見る
公式 Twitter アカウント @memuro_gikai
公式 facebook ページ http://www.facebook.com/memuro.gikai